

# 台湾新聞

TAIWAN NEWS ◆ 2011年6月号 月刊 東京発行 NO.152

台湾新聞はtwitterを始めました  
@taiwannp をtweet!



台湾の紀行文・写真コンテスト開催中!

Web: <http://taiwannews.jp/>  
E-Mail: [info@taiwannews.jp](mailto:info@taiwannews.jp)

### TOPIC

- 日本語版
- 王金平立法院長「日本は安全」をアピール 1面
  - 沖縄県仲井真知事と華僑団体ゴルフ大会 2面
- 中国語版
- 王金平院長率大型観光團訪北海道 7面
  - 台湾新聞「愛台湾」徴文比賽 7面
  - 銀葉賞生堂化放、保養一次摘定 9面

## 「日本は安全」をアピール

### ～台湾・立法院院長：王金平氏が200人以上を連れ北海道を訪問～

台湾の政府の立法院の院長、王金平氏一行290人が12日、台湾から北海道に到着。「日本は安全」をアピールした。王院長は4月20日、台湾からの義援金の一部を東京に持ってきた際(台湾新聞151号記事)、再選が決まったばかりの北海道知事の高橋春美氏と議員会館で会い、5月の北海道訪問を約束した。今回はその約束を果たすため、290人以上の台湾からの随員と観光客を連れての来日となった。

12日の初日、エアー航空で台湾から訪れた中には選有氏、李鴻鈞氏、涂醒哲氏ら、十人あまりの立法院議員もいた。千歳市の副市長・駒澤文雄氏、北海道観光振興機構の職員一同も、千歳空港で王院長一行を出迎えた。また、この席で北海道と釧路市、ニトリホールディングスの三者が、釧路のタンチョウのつがいを台湾の台北市立動物園に寄贈する「ニトリ・サルンカムイ・プロジェクト連携協定事業」が発表された。

台湾から北海道への観光客は北海道の外国人観光客の1/3にのぼる(2010年の台湾から北海道への観光客は24万人)。しかし3月11日に東日本大震災が起って以降、月1万6千人の台湾観光客は1千人あまりまで激減した。北海道にとっては観光が主な収入源であるため、観光は大きな打撃を受けた。そのため、今回の台湾からの王院長の北海道訪問が、北海道の観光事業回復の起爆剤となると思われる。4月21日には、台湾から北海道地域、東京地域への渡航制限が解かれ、台湾から日本への渡航はごく一部の地域を除き、安全なものとなアナウンスされている。

一方、今回の王氏一行に随行した台北駐日経済文化代表処・札幌分室の徐瑞湖処長は、3.11の大震災以来、北海道へ来る台湾人観光客は1割まで激減したが、台湾に観光目的で訪れる北海道の人たちは24%ほど増加していると、語った。北海道の観光は王委員長一行の来日で、さらに回復が加速するものと見られている。

一行は、空港での歓迎のレセプションの後、250人の台湾からの観光客はそれぞれの団体がそれぞれの観光地に向かった。また、王金平氏はじめ40人の立法院議員とその随員一行は大通り公園をはじめ、札幌市内を観光。その後札幌のホテルオークラで北海道知事・高橋はるみ氏らと記者会見を行った。



空港で北海道の観光関係者に歓迎を受ける王金平氏一行



王金平氏と北海道知事・高橋はるみ氏



台北駐日経済文化代表処の陳副代表・台湾観光協会東京事務所の黄怡平氏など日台の台湾の政府関係者も多く訪れた



王金平氏と北海道知事・高橋はるみ氏



あなたの「欲しい」が義援金に!

復興支援「買流れ品」チャリティーオークション

25 26

**いけぶくろ質屋まつり**

池袋/大塚の質店が中心となった質屋有志の運営による買流れバザール!

主催 いけぶくろ質屋まつり実行委員会  
会場 サンシャインシティ文化会館2階  
コンベンションセンター 展示ホールD-1  
日時 平成23年6月24,25日(金,土)  
10:00-19:00/26日(日)10:00-18:00  
<http://www.78fes.com/>



空港では王金平氏一行を迎える北海道の観光関係者が垂れ幕を作って一行を歓迎した



報道陣の質問を受ける王金平氏

## 台湾物産館の御中元

**台湾ビール**  
台湾最大のビールブランドです。爽やかなどろどろとキレがあります。特製化粧箱に入れてお届けいたします。  
¥3,500 (送料込、税込)  
受注期間 8月15日まで  
配送期間 8月末日まで

**からすみ**  
高級、屏東の外海で捕獲した天然からすみです。旨味が凝縮され、しっとりとした食感、最高の珍味です。ご贈答好適品として是非ご利用ください。  
¥3,800 (送料込、税込)  
受注期間 8月15日まで  
配送期間 8月末日まで

**アップルマンゴー** 冷蔵便  
約2.5kg 約5kg  
¥4,500 ¥7,000 (送料込、税込)  
受注期間 6月1日～7月15日  
配送期間 6月中旬～7月末日

台南県、屏東県産アップルマンゴーです。常夏の日差しを浴びて、青の強いなめらかな食感を持ち、真っ赤な太陽のような甘い熟マンゴーです。糖度13度以上でサイズも揃った特選品です。すべての商品は台湾から直輸入し、弊社にて検品を行い、特製化粧箱に入れてお届けいたします。

URL: <http://www.taiwan-bussankan.com>

台湾物産館 笹塚店 〒151-0073 東京都渋谷区笹塚2-14-15 ヴェルト笹塚ツインビル1F TEL&FAX: 03-5304-7801  
台湾物産館 お台場店 〒135-0091 東京都港区台場2-2-1 ザ・タワーズ台場 アネックスモール1F TEL: 03-3527-8861 FAX: 03-3527-8862  
台湾物産館本部 (池袋青果株式会社) 〒170-0013 東京都豊島区池袋3-15-7 池袋ビル2F TEL: 03-3988-3321 FAX: 03-3985-8173  
URL: <http://www.taiwan-bussankan.com> Yahoo! <http://store.yahoo.co.jp/taiwanbussankan>

宅配利用で遠くからでも利用OK

パソコン処分したいんだけど・・・  
**無料** どうすればいいの?

**【依頼者にお得情報】**  
デスクトップSET  
ノートPC (液晶モニター不可)  
液晶モニター (液晶モニター不可)

**パソコン**  
データの破壊サービス付  
当社に依頼されたパソコンは全てHDD破壊付です。ご希望の方は、その場で破壊致します。

**周辺機器・家電**  
壊れ・古い お引受け致します  
解体→分別→再資源なので、ゴミではありません。  
家電リサイクル品目 (テレビ・冷蔵庫・洗濯機・エアコン) は別途ご相談下さい。

**【その他高価買取します】**  
非鉄・スクラップ・廃プラ  
エアコン・銅線・給湯器、他

なんでもご相談下さい

持込ヤード  
70%アップスクラップスクラップ高価買取  
解体の様子

**信利工業(株)**  
(日本関西台商協会 会長: 池平美香)  
<http://www.shinrikogyo.co.jp> 〒593-8312 大阪府堺市西区草部2009番地  
tel 072-260-3688 fax 072-260-3677

# 中華民国百年記念 東日本大震災チャリティゴルフ表彰式と懇親会

沖縄の琉球ゴルフクラブで、中華民国100年記念・東日本大震災チャリティゴルフ大会が、中琉協会ははじめに沖縄の華僑団体主催で2011年5月16日に行われた。始球式には、沖縄県の仲井眞弘多知事、浦添市長の儀間光男氏、東京から台北駐日経済文化代表処の陳調和副代表、台北駐日経済文化代表処那覇分処の粘信士処長、主催団体の中琉協会・國場幸一氏、琉球台湾商工協会の新垣旬子会長、琉球華僑総会の林國源氏、そして上地博之会

長、太田哲事務局長をはじめとした華志会(琉球留華学生会)のメンバーはじめ、在沖縄の台湾関係各所、そして、日本の友人が一同に集った。  
当日は大変な雨に見舞われたにもかかわらず、午前中約40組、午後約30組(午後からはかなりのキャンセルがあった)がホールを目指し、賑やかなお祝いのゴルフ大会となった。しかしながらあまりに激しい雨のため、ゴルフ場側からの勧告で午前中のみで大会は中止。大方のグループは

ハーフを回ったところで終わったが、コースを回ったあとの語らいの時間には、多くの台湾関連、琉球関連の名士の集う華やかな会となった。  
その後、夕方7時からは、ロワジールホテル那覇に場所を移し、ゴルフ大会の表彰式と懇親会となり、台湾から訪れたグループも含め、約300名の参加となった。もちろん沖縄県の仲井眞知事、そして浦添市長の儀間氏も訪れ、賑やかな懇親会となった。



沖縄県知事の仲井眞弘多氏を囲んで

# 日経アジア賞・科学技術部門に台湾の呉茂昆氏

東京の帝国ホテルで、第16回日経アジア賞の授賞式とレセプションが2011年5月26日行われた。  
今年、経済発展部門ではフィリピンのアントニオ・メロト氏受賞、文化部門ではベトナムのパオ・ニン氏が受賞。そして科学技術部門では、台湾の中央研究院物理研究所・所長の呉茂昆氏が、高温超電導材料など、さまざまな機能性材料の研究開発、そして台湾の科学技術振興に貢献したとして、受賞した。  
授賞式には台北駐日経済文化代表処の馮寄台代表も訪れ、呉氏の受賞を感慨



レセプション会場で受賞した呉茂昆氏夫妻と歓談する台北駐日経済文化代表処の馮寄台代表

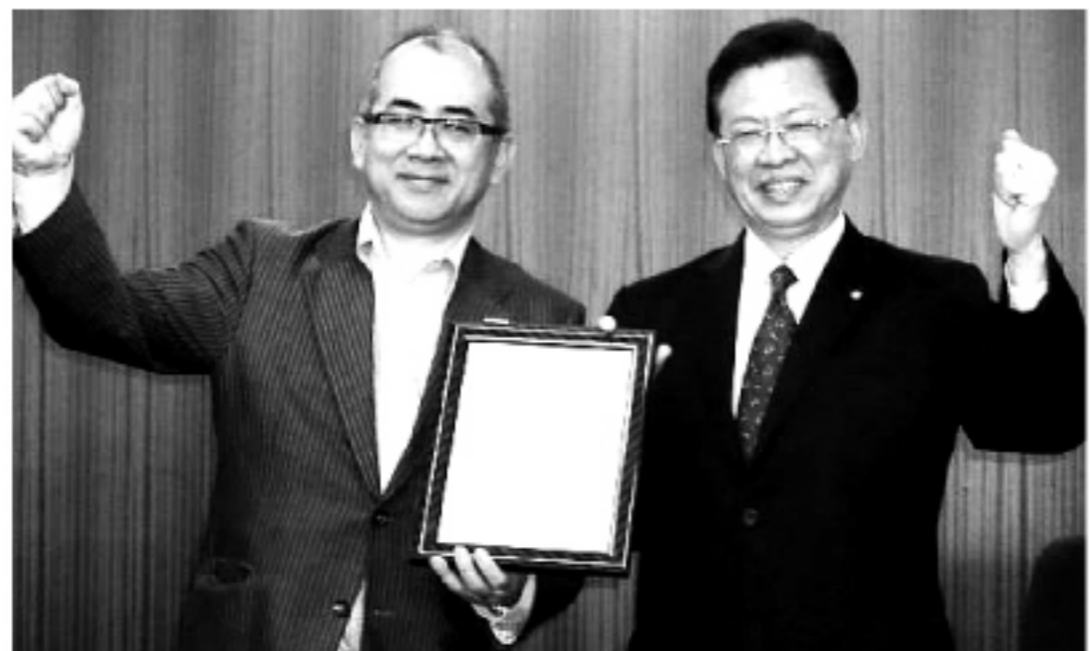
深く見つめていた。  
呉茂昆氏は1949年、花蓮県生まれで今年61歳。米国ヒューストン大学、アラバマ大学の講師から、コロンビア大を経て90年に台湾の清華大学教授となり、2002年に中研院物理研究所長に就任した。アラバマ大学で高温超電導に出会い、以後研究を続ける。2004年から2006年に台湾の国家科学委員会の主任委員となり(日本では学術会議の議長にあたる)、政府の科学行政にもかかわった。現在は中央研究院の物理研究所長の傍ら、政府のナノテクノロジー政策推進の最高責任者



受賞した三氏。一番左が呉茂昆氏

# チャイナエアラインが日本観光庁から感謝状

感謝状授与式は日本時間5月20日13:00に行われ、国土交通省観光庁溝畑宏長官より、チャイナエアラインの日本支社長楊辰氏に感謝状が贈られた。  
溝畑長官は、東日本大震災の影響によって訪日旅客が減退する中、チャイナエアラインが率先して台湾旅行業界関係者への日本各地への視察研修旅行などを継続的に働きかけ、日本の観光産業の復興に大きく貢献したことに対して深い感謝の意を表した。  
チャイナエアラインは、震災直後に被災地へ救援物資を無償輸送。激甚災害にもかかわらず日台路線の運航維持。また、4月28日には台北-大阪-ニューヨーク新規路線を予定通りに開設。さらに、日本支社を含めたチャイナエアライン全職員から800万円(約2,300万円)に上る募金を募り、今後の日本観光の復興プロモーションのために、台湾交通部観光局を通じて日本旅行業協会(JATA)、福島県、ふくしま台湾友好協会をはじめとした被災地の団体へ寄付した。  
日本旅行業協会(JATA)は、観光こそが日本復興の最良の方法であるとして、東日本大震災からの復興に向けた「復興宣言」を行い、チャイナエアラインではダイナスティパッケージ日本ツアー半額キャンペーンのプロモーションを展開。4月には関西、北海道、立山黒部、南九州、5月には東京、広島、沖縄などに、台湾の旅行会社、メディア、業界関係者を中心とし



観光庁溝畑宏長官(左)、チャイナエアライン楊辰日本支社長(右)(写真:チャイナエアライン提供)

た日本視察団を招聘した。  
チャイナエアラインによれば、同社は今後も引き続き日本が安全な観光地であることをアピールするとのこと。  
チャイナエアラインは20日、震災救援活動始め、その後日台路線のプロモーションによる観光産業の復興に尽力した功績が認められ、国土交通省観光庁より感謝状を贈られた。



5月18日、感謝状授与式に先立ち台湾からの日本視察旅行団を歓迎する観光庁武藤浩次長(前列中央)

も兼務している。  
日経アジア賞は、1996年から始められた。日本経済新聞社が主催し、アジアの経済発展、科学技術、文化に貢献した人物を毎年一人ずつ選び、これを表彰する。審査員は日本の経済界・学会を代表する人物が当たり、現在は経団連の名譽会長を

務めるトヨタ自動車の豊田章一郎氏が審査員長。なお、日経アジア賞では、2007年の科学技術部門で、台湾交通大学名譽教授の張俊彦氏、昨年のやはり科学技術部門で、台湾大学医学部教授の陳定信氏が受賞しており、近年の同賞の受賞者には台湾出身者が光を放っていると言える。

# エバー航空が「がんばれ日本ツアー」

台湾のエバー航空が、台湾の旅行会社13社と「日本加油(日本がんばれ)」と銘打った、日本向けのツアーの募集を4月14日、始めた。通常のツアー料金の3割から5割安、という。同社は仙台空港にも便があったが、東日本大震災による津波で同空港が使えなくなり、4月末時点でも空港そのものは国内臨時便の発着には使えるものの、定期便はまだだめで、空港へのアクセスがほとんどできない状態。うまくいけば、今年9月の再開となるだろうとのことだが、まだめどは立っていない。同社便を使った日本向けのツアーは、羽田、成田、関西、名古屋、小松、福岡、札幌への各便が使われる。ツアー料金は、北海道4泊

5日などの人気の高いもので、約5万7千円ほどと、従来より安い料金が設定されている。なお、エバークリーン・グループの張榮發総裁は、日本の震災へ向け、個人で約10億円の寄付をしている。  
4月20日、台湾から北海道、関東などへの渡航禁止が解かれた。このタイミングで台湾の二大航空会社(エバー航空、チャイナエアライン)ともに、日本の観光業への「救援」が始まったことになる。



# エバー航空 蕭日本支社長が勇退 新支社長に王氏

エバー航空日本支社では、5月16日、蕭錦隆(Chin Lung Hsiao)日本支社・総支配人に代わり、王振興(Gary Wang)氏が新支配人として着任した。蕭氏は本社運営本部運航管理部長に転任となった。王振興氏は本社の国際営業本部客運管理部長からの転任。

エバー航空日本支社では、5月16日、蕭錦隆(Chin Lung Hsiao)日本支社・総支配人に代わり、王振興(Gary Wang)氏が新支配人として着任した。蕭氏は本社運営本部運航管理部長に転任となった。王振興氏は本社の国際営業本部客運管理部長からの転任。



新任の日本支社総支配人・王振興(Gary Wang)氏



蕭錦隆(Chin Lung Hsiao)・前日本支社総支配人

- ◆王振興新日本支社総支配人略歴
- 1992 エバー航空入社 経営企画室
- 1999 欧州支社 副課長
- 2001 旅客部 課長
- 2005 経営企画室 課長
- 2006 英国支社 総支配人
- 2009 国際業務部 副部長
- 2011 国際業務部 部長
- 2011 日本支社 総支配人

# 宮城県で台湾 僑務委員長からの支援の水「引渡し式」

台湾の政府の僑務委員会委員長・呉英毅氏と世界台湾商會聯合總會の総会長・盧起慶氏から東日本大震災の被災者への救援物資として、1.5リットルのペットボトルに入ったミネラルウォーター9万本の宮城県への引渡し式が2011年5月2日、宮城県庁で行われた。  
日本側の受け入れ団体は一般社団法人日華協会(理事長:頭山興助氏)。この水は3月中に日本側が出した要請に応じて、台湾政府の僑務委員会が世界の台湾華僑に呼びかけ、その呼びかけが実ったもの。合計で19万本の水の一部は余震対策

の一環として、茨城の市町村に配布される。残りはこれから必要とする地域に運送されるが、現時点で茨城県は中継地として水を保管する。今回の引渡し式はそのうち引渡しの対象となった9万本について行われた。  
引渡し式の席上、宮城県の若生副知事は「義援金の取り扱い」について語り、「赤十字社を通した義援金は手数料としてその1/4を引かれてしまい、現地には届かない。できれば直接県などへ義援金をお願いしたい」と語った。  
また、引渡し式後の記者会見では、3月

25日に国会を通過した「海外美術品等公開促進法」にもとずき、台湾の「台北・故宮博物院」展が日本でも開催が問題無く行えることが確定したことにも話が及び、台北駐日経済文化代表処の馮寄台代表(台湾の大使にあたる)が、別の席で、復興支援の一環として、仙台での「台北・故宮博物院展」の開催も考えている、ということが語られたことなどが話題ののぼり、暖かな復興支援の輪の広がりを感じる記者会見となった。  
今回の引渡し式の出席者で台湾の華僑と長年親交のある茨城県議会議員石川多聞氏は「被災地の必要とするものは刻々と変わっていくが水はいつでも必要。また、被災地がもっとも必要とするのはやはり義援金」と語った。また、引渡し式に出席した日華協会代表・頭山興助氏は「台湾人は日本に愛情を持っていることを改めて感じた」と話した。

# 共同通信が馮寄台代表にインタビュー

5月12日、共同通信社が台北駐日経済文化代表処の馮寄台代表(それぞれ「台湾の大使館」と「大使」にあたる)にインタビューした。馮寄台代表は台湾の政府を代表して日本のマスコミの質問に答えた。台湾の置かれた立場がよくわかるインタビューとなっている。いずれも、馮寄台代表が共同通信記者の質問に答えるかたちでの記事となっており、興味深い内容が綴られている。以下はその要約。

## ◆原発と台湾について

まず、馮寄台代表は日本の東日本大震災について記者の質問に答え、台湾のエネルギー事情などから鑑みて、台湾でも日本の福島第一原発の事故を重く受け止めており、台湾で来年完成予定の4番目の原発の運転延期を決定するなど、原発の存在を否定はしないが原発に対して慎重な姿勢で臨むとのこと。また、原発問題は来年に予定されている台湾の政府の総統選挙にも大きな影響を与えていると認識しているとのこと。具体的には、現在政権与党である国民党は原発に対し慎重な態度で推進することを主張し、対する民進党は原発を廃止することを政策に掲げて選挙に臨むとしている。

また、台湾と中国の距離は100kmほどしかなく、台湾の対岸にある広東省にも原発がある。いざ事故が起こればその影響が台湾にも及ぶため、台湾の政府は大陸の政府とも相談しているという。また、風力発電などの自然エネルギーの利用も考えてはいるものの、現行の火力、原子力にはすぐに及ばない、と政府は考えているとのこと。また、台湾の産業界は「原発をすぐに止める」ことには当然のことながら反対している。

## ◆国民党・馬英九政権の成果について

この4年間の国民党政権の成果としては、まず経済が挙げられる。「92年コンセンサス」をもとに大陸との経済関係を促

進し、昨年は两岸の経済協力関係を一層促進する「ECFA(两岸経済協力枠組協議)」を成立させた。その結果として、2010年の台湾の経済成長率は10%を超えただけでなく、日本をはじめとした周辺諸国との関係もより良いものになった。民進党政権を含めたこれまでの20年間には、このようなことはできなかった。日本との間にも多くの友好を促進する政策が実った。代表処の札幌分処の開設、外国人登録での「台湾」表記の実現、日台ワーキングホリデー制度、「海外美術品等公開促進法」

の成立による台湾故宮博物院にある文物を安心して日本で展示できるようになったことなどが、成果として挙げられる。

## ◆ECFAは日対関係に影響を与えるか?

ECFAは大陸と台湾のFTA(Free Trade Agreement)のようなものだが、厳密に言えば違う。しかし、台湾にとって大陸は一番の貿易パートナーとなっており、その次が日本だ。日本で作った部品を台湾で半製品にし、大陸で製品にして世界に輸出する、という産業構造があるので、ECFAは日本の経済にも良い影響を与えることだ

ろ。また、台湾の政府は日本とも同様の経済協定を締結するべく働きかけている。

## ◆民進党の蔡英文氏をどう思うか?

民進党の蔡英文氏は国民党の馬英九氏と任期が拮抗しているが、原発問題などを除き、野党としての発言が多い。「92年コンセンサス」、ECFAについても具体的な政策を出していない。経済も人の行き来も台湾と大陸は非常に盛んになっており、この現実を「反中」だけでは解決できない。馬政権の対中政策は「反中」ではなく「和衷」だ。中国との関係については、台湾の将来については、台湾の住民自身が自分たちでこれから決めていくことだ。また、大陸の政府は馬政権を成立させたい、という思いがあるように見えるが、馬總統自身「統一についての交渉は当然分らない」と言っている。また、馬政権が「統一か否

か」を政治のテーマとすることはない。

## ◆中国はより強硬に統一を迫ってきそうだが...

台湾はこの60年間、大陸の政府の強硬な態度を経験してきている。1996年には大陸からミサイルも飛んできた。しかし、台湾の行く末を決めるのは台湾人自身だ。大陸も強硬な態度に出るだけではだめとわかって、最近は柔軟な態度も見せている。台湾に大陸が強硬な態度をとれば、台湾に多くの「反中」を作る。現在の台湾の中産階級は「反中」でも「独立」でもなく「現状維持」が多く、その数は70%~80%だ。中国が強硬姿勢をとれば、この人たちが「反中」になる。そういうことは大陸の政府も避けたいはずだ。しかし台湾の政府としては「台湾人が台湾自らの問題を決めることに代わりはない」と考える。

# 第11回日本自分史大賞 表彰式で許水徳氏が受賞

「私の物語」自分史大賞の第11回授賞式が、2011年5月7日、市ヶ谷のあるカティア市ヶ谷で開催され、多くの台湾人もこの賞を受賞した。特に、今回の入賞者には、前台北市長であった許水徳氏がいたことで、台湾にとっても非常に興味深い授賞式となった。許水徳氏は公務のために参加できず、今回は台北駐日経済文化代表処の陳調和副代表が代わりに祝辞を述べた。会場には、台北駐日経済文化代表処の馮寄台代表の花も飾られ、華やかさのある授賞式となった。

また、来賓のひとりとして、元参議院議員田嶋陽子氏も訪れ、70歳とは思えない元気なスピーチを行った。参加者は150名以上を数え、立ち見も多数、という盛況だった。なお、台湾人の受賞者は以下の通り。

## ◆国際賞 『全力を尽くして・許水徳回顧録』



多くの「自分史」が受賞した

- 許水徳(中華民國・台湾・台北市) 『燃ゆる志の試練と感謝』
- 東俊賢(中華民國・台湾・台北市) 『清き池水を求めて』
- 林丕雄(中華民國・台湾・台北県) ◆昭和の記録賞 『理想を求めて我は行く...1950年台湾白色テロの受難者』
- 呉豊潤(中華民國・台湾・台北市) 『ああ空征かば』
- 黄華昌(中華民國・台湾・苗栗県) 『台湾少年工回想録』
- 彭炳耀(中華民國・台湾・新竹市)



受賞した許水徳氏の代わりに挨拶する台北駐日経済文化代表処の陳調和副代表



元参議院議員田嶋陽子氏

# 台湾留学生黄淨愉さん、尾中郁夫・家族法新人奨励賞を受賞

北海道大学大学院法学研究科博士課程に在学している台湾人留学生黄淨愉さん(28)の修士論文「台湾における養子縁組の制度的特徴と現実の機能―特に日本法との対比で」が日本加除出版株式会社主催の第12回尾中郁夫・家族法新人奨励賞を受賞した。授賞式は5月27日に霞が関にて行われた。会場には前日台湾から来日した



左起：黄淨愉の母親王阿蘭、黄淨愉、指導教授鈴木賢、父親黄宗樂

さんのご両親も出席した。外国人の受賞は23年前の尾中郁夫・家族法新人奨励賞が創立されて以来、黄さんが3人目となる。指導教授鈴木賢氏は、黄さんの論文は条例の内容だけでなく、台湾養子制度の社会背景及びその現実にまで言及したこと、そして、アジアにおいては家族法に関して、このような問題提起が少ない現状があるので、それが受賞の理由ではないかと述べた。日本加除出版株式会社の取締役社長

の尾中哲夫氏は、兄の尾中郁夫氏は23年ほど前に亡くなり、受賞審査委員会の委員を務める先生方を始め、兄を偲ぶため、「尾中郁夫・家族法新人奨励賞」を設立したことを語った。加えて、12年ほど前に30歳以下の若者の将来を助ますため、「尾中郁夫・家族法新人奨励賞」を新しく作った。研究者の若者の更なる成長に尽力したいという。黄淨愉さんの父、黄宗樂氏は以前、総統府の顧問として務めたことがあり、現在は中国文化大学の法律学科の教授。

# 台湾研修旅行の感想 京都大学4年 中野友加里さん

今回の旅では行政院新聞局、李登輝元総統、蕭万長副総統に表敬訪問に伺いました。李登輝元総統への表敬訪問に際しては、当初の予定を大きく上回る2時間20分もの間熱弁をふるっていただき、握手していただくこともできて感無量でした。友愛会の方々、教育部、蔡煜燦さんとの食事会では、みなさま地位の高い方々ですが気さくに話しかけてくださり、とても楽しい時間を過ごすことができました。故宮博物院では最も印象に残ったのが翡翠の白菜でした。とても気に入ったので、お土産に白菜グッズをたくさん買いました。



第8回日台文化交流青少年スカラシップ 受賞者の5泊6日の研修旅行の最後のお別れパーティーで日本と台湾の学生とともに。一番左が中野さん。

台湾新幹線が台南へ向かい、日本統治時代に八田與一さんがその建設を指揮し台湾の農業に大きく貢献した烏山頭ダムへ行きました。新渡戸稲造や後藤新平の活躍もよく知られていますが、実際に烏山頭ダムに足を運ぶことで日本統治の肯定的な面をこの目で確かめることができました。

この旅の中で一番楽しかったことは東呉大学の学生との交流およびホームステイでした。みんなでお食事をしたり、女子だけで夜の観覧車に乗っておしゃべりをして本当に楽しかったです。ホームステイでは台湾人の見返りを求めない親切さを感じることができました。最終日のお別れパーティーに東呉大学の学生らが来てくれましたが、別れが惜しくて、写真をたくさん撮りました。

先日の東日本大地震に関して、人口2300万人、日本の半額あればおいしいものがおなかいっぱい食べられる台湾において、この円高の中2011年4月1日時点で106億円を超える義援金が集められいくら感謝してもしきれないほどです。現地でも日本人とわかると話しかけてくれて、本当に日本が好きだということが伝わってきました。出会った人みんなが親切で良い思い出ばかりです。

最後になりましたが、この旅でお世話になった方々に謝意を表したいと思います。ありがとうございました。多謝。また絶対に台湾に行きます。

# 「ワンテーマ指さし会 話台湾×鉄道」 片倉佳史著

台湾について造詣が深いことで知られている片倉佳史氏は、実は鉄道愛好家としても有名である。この本、単なる中国語会話本かと思っていたが読んでみると文章がメインで、鉄道に対する愛情がぎゅぎゅつまっている。台湾の鉄道を楽しむための様々な情報が今までにない視点で描かれ、使用済み切符を持ち帰る方法なども興味深い。旅情を誘う写真がたくさんあり、鉄道ファンならずとも台湾の鉄道に乗ってみたいくなる一冊だ。(保谷早優伶)



ワンテーマ指さし会 台湾×鉄道 情報センター出版局価格 価格 900円(税別)945円(税込)

# 「台湾は中国の一部ではない」WHOに正式抗議

世界保健機関(WHO)の総会にオブザーバーとして参加する台湾の邱文達衛生署長(衛生相・日本では厚生労働大臣にあたる)は、5月17日、WHOの本部のあるジュネーブで、同氏の演説を行い、その中でWHOが内部文書で台湾について「中国台湾省(Taiwan Province of China)」の名称を使っていた事に対し、抗議を行った。邱氏は「中国の一部として扱われることは到底受け入れられない」と強調した。

# Dr.周東「たけしのニッポンのミカタ」に出演

埼玉県台湾人医師として有名な周東寛先生が、7月1日(金)午後11時からテレビ東京で放映されている「たけしのニッポンのミカタ」に出演が決定!

# 台湾新聞社主催 第二回「日台お見合いパーティ」

2011年5月21日、台湾新聞社主催・「台湾好き!」、台湾観光協会、台湾物産館共催で、池袋の台湾新聞社の9階ペントハウスで開催された。参加者は男女あわせ26名。東日本大震災の影響で1か月遅れの開催となったものの、盛大な会となった。

台湾物産館からの台湾産殻つきピーナツなどが参加者全員に配られた。また、会場となった台湾新聞社の9階のペントハウスは天気良く、近くには立教大学のキャンパス、遠くには新宿副都心も見え、広いベランダでも多くの参加者の語らいが目撃された。

当日は軽いお菓子と飲み物が出され、男女の話に花が開いた。台湾観光協会からは台湾の人気アイドルグループ、飛輪海(フェイルンハイ)の写真集やグッズ、

今回の「お見合いパーティ」では、募集した男女は30歳以上とされたためか、それぞれに人生経験豊かな落ち着いた雰囲気があった。



語らいの時間は楽しい時間だ



盛況だったお見合いパーティ

### 中華民國100周年お祝い特集(10)

## 瀬戸内海と淡路島を臨む「孫文記念館」

「孫文記念館」は、神戸の「舞子」にある。舞子といえば、淡路島を臨む本四架橋・淡路島ルートの本州側の起点だ。孫文記念館の前には瀬戸内海が広がり、その横には本四架橋・明石海峡大橋・の巨大なコンクリートのアンカレッジと見学施設がある。そのすぐ横に、ぼつんとある白と淡い緑の洋館。それが「孫文記念館」だ。

孫文記念館そのものは神戸で活躍した中国人実業家・呉錦堂(1855～1926)氏の別荘「松海別荘」を前身とし、その後増改築がされ、通称「移情閣」と呼ばれる

ようになった建物だ。「舞子の六角堂」と呼ばれたこともある。

1980年代、この移情閣を管理していた神戸華僑総会が兵庫県にこの建物を寄贈。1984年の11月12日(孫文の誕生日)に、「孫中山記念館」として開館した。しかし、明石海峡大橋の建設のため、200m離れた現在の場所に移築されたとのこと。ちょうど移築のため解体したところで、偶然にも1995年の阪神淡路大震災が起きた。そのために地震での破壊などからは逃れたとのこと。

4月27日、台北駐日経済文化代表処の馮寄台代表と台湾関係のマスコミ一行がこの「移情閣」を訪れた。孫文関連の資料を持っている施設や個人、研究機関はいくつかあるが、この孫文記念館のそれは、宋慶齡の着ていた服をはじめ、多くの書などの資料も豊富で、辛亥革命から100年の今に、当時の日本と中国、そして世界のありようを伝える、興味深いものがとても多い。一行は馮寄台代表とともに館長安井三吉氏の説明を聞きながら、100年前の革命と中国、そして日本に思いを馳せた。



移情閣の庭でカメラに収まる馮寄台代表と台湾関係マスコミ各社特派員



台北駐日経済文化代表処の馮寄台代表と孫文記念館館長の安井三吉氏

## 一青窈 渋谷PARCO・パート1で「台湾のもの作り」の旅

渋谷のPARCO PART1の6階で「一青窈が台湾のものづくりと出会う3泊4日の旅」が4月29日から5月16日まで開催された。今日日本の若者の中で話題の手に職を重んじる台湾への旅行。その旅行の途中で出会う「ものづくり」の技。一青窈さんがその旅で出会った台湾の「もの」や、ものを作る職人たちとの出会いを、さまざまな「もの」「写真」で展示している。

まるで自分が台湾の旅をしたかのようなその空間は、ちょっと東京を離れた気分になる。この旅行は架空の旅行会社「PARCO TOURIST」が行った3泊4日の旅行と、その旅行で出会ったものや職人たちの物語。小さくて、わくわくする台湾の「モノ」との出会い。小奇麗でちょっと甘いピンク色で縁どられている空間。「こんな



台湾もいいね!。展示を見終わった2人の若い女性が、そう言い合っていた。彼女たちは、この後台湾に旅立ったのかも知れない。

主催:PARCO  
後援:台湾観光局 協力:エパー航空 企画:コーティネイト:H.P.FRANCE S.A.(場と間) 特別協力:  
一青窈 編集・アートディレクション:林洋介(14sd)  
台湾コーティネーター:青木由香  
フォトグラファー:アイビー・チェン(Ivy Chen)  
メイク:Monfi Lin シブ屋台協力:東京朝市・アースデイマーケット,magma

## 台湾の原発・運転延長を認められず

台湾の馬英九政権は稼働中の原発6基について、老朽化による危険を回避するため、求められていた運転期間の延長を認めない方針を固めた。現在稼働中の台湾の原発は、今後、2018年から2025年までに、順次廃炉とする。

台湾電力は、1978年に運転を開始した第1原発について、これまで運転開始から40年間とされていた運転期間を60年間に延長するよう申請していたが、これが認められなかった。また来年末の運転開始を目指していた建設中の第4原発につ

いては、安全性を再確認し、その後の運転開始となる見込みとなり、運転開始は更に先送りされる見込み。馬政権は今後、新たな原発は建設しないことを言明。稼働中の原発の安全確保を最優先すると発表。現在、台湾で使う電力の約2割が原発によるものだが、今後は原発への依存度を低くし、クリーンエネルギーの開発を推進する。なお、台湾の原発はそのすべてが海沿いにあることや、台湾そのものが地震や台風の影響を受けやすい場所にあるなど、日本と事情が似ている。

## 媽祖を祀る「鹿港天后宮」と 夫婦や恋人を導く城隍の奥方「鹿港・城隍廟」

台湾で宗教、特に「お寺」というと、日本のそれとはちょっと趣が違う。お寺は地域の生活に溶けこんでいて、「お父さんがいて、お母さんがいて、そしてお寺がある」というような、ごく身近な存在だ。お父さんもお母さんもやがて年老いて死んでしまう。でも、お寺は残る。自然と地域の人の心の拠り所としてお寺がその地域に根を張る。

たとえば、会社帰りのOLが、上司に理不尽なことを言われた、と、お寺にやってくる。彼女はさんざん激しく泣く、怒る。大声をあげて、上司をそこでなじる。お寺を守る人はその話を静かに聞き、線香に火をともし、その人にお寺のさまざまな祭神に祈るように、という。言われたままに、彼女は祈る。心を落ち着け、彼女は帰宅する。翌日、彼女は何もなかったかのように、また出勤する。人の社会を超越したなにかが、彼女のこころを、静かなものにする。



鹿港・城隍廟

おそらく、かつては日本でもあったであろう、そういった地域の人の心の拠り所が台湾の「お寺」だ。

中華文化の発祥地である大陸ではほとんどの宗教が禁止された時期があり、あまり正しい形でのお寺の文化が残っていない。もちろん、韓国や日本になれば、宗教そのものの形が変わって、中華の文化とはかなり違うところも多い。そのため、台湾にはより中華の文化に忠実な宗教とお寺が残っている、といつてよい。

彰化県の海沿い。日本の統治下になる前の古い港町街・古い港町「鹿港」には、そういうお寺があちこちにある。そこに集う信徒の人たちも、ごく普通の街の人だ。

鹿港の街の真ん中に位置する「天后宮」は、女性の神様「媽祖」を祀っている。媽祖は母性豊かにやさしく漁民を守る海の神様だ。日本にも横浜中華街に媽祖廟があり、お参りができるが、そちらはかなり新しく、2006年にできたものだ。

2月のある日、その天后宮に行ってみた。雨が降りそうな空だったが、朝早くから多くの信徒の人たちが、揃いの黄色いハッピーのようなものを着て天后宮にお参りに行く。爆竹も鳴らされる。天后宮のある場所は、鹿港の中心部になる交差点だ。まわりには観光客や参拝客を目当てにした飲食店や土産物屋、そして、お参りに必要な神様への捧げ物のお菓子などを売る店が並んでいる。これを見ているだけでも楽しいが、なによりもその信徒の人たちの行列が天后宮に入るところでは、爆竹や神様の背の高い気ぐるみ(?)などが見られる。別の場所の学校の校庭では、臨時の屋台がたくさん出ている。料理のいい匂いがあたりに漂う。そのお祭りを取り巻く人達も、なんだか楽しそう。なお、天后宮のホームページには日本語もある。

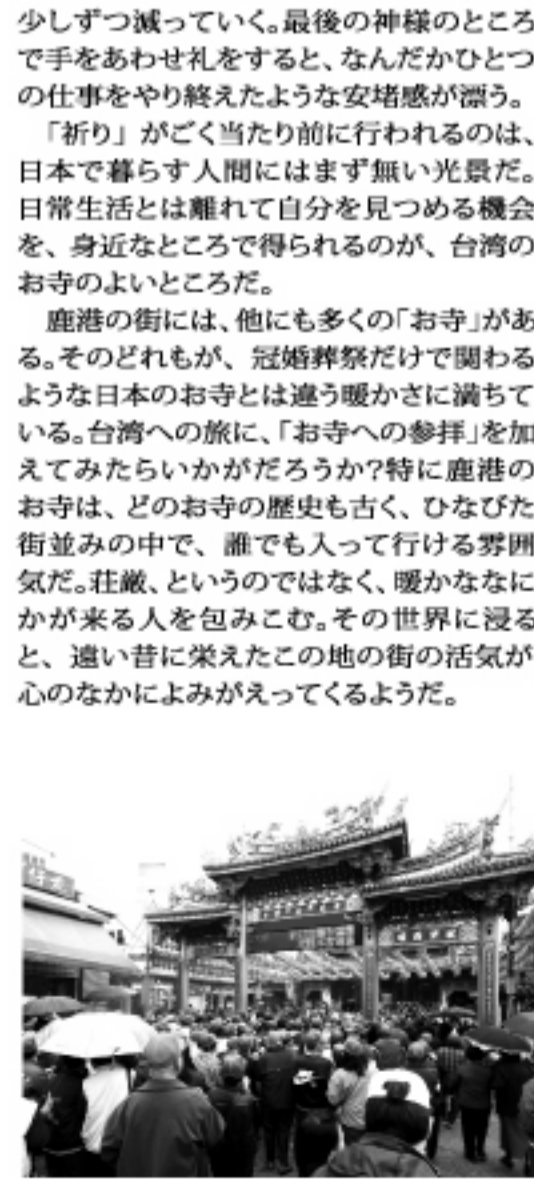
そして、次の日の夜、鹿港の大通りにある城隍廟に行った。大きさはあまり大きく

はいものの、大通りに面してかなり目立つ。城隍廟は都市の守護神・城隍神という神を祀るお寺だが、鹿港の城隍廟の中には、いくつもの関連した神様の像が並んでいる。お寺の人がいろいろ教えてくれるのだが、覚えきれないくらい沢山の神様がいて、みな個性にあふれている。特にこの鹿港の城隍廟の奥方は結婚の神様とかで、なぜか化粧品などが多くお供えものになっている。

これらのお寺での作法は、まず入り口で線香をはじめとした「お参り用品」を買うことから始まる。お供え物は必ず持って行き、そのお供え物を神様の前のテーブルに置く。線香は数本ずつ、廟の中の神様たちに、決められたコースで供え、その都度三度礼をする(細かいところは各地の各寺によって違う)。ひと通りまわり終えると「参拝終了」ということになる。あとはお寺の住職のご一家と談笑したりすることもある。線香が神様の前に備えられるごとに、少しずつ減っていく。最後の神様のところで手をあわせ礼をすると、なんだかひとつの仕事をやり終えたような安堵感が漂う。

「祈り」がごく当たり前に行われるのは、日本で暮らす人間にはまず無い光景だ。日常生活とは離れて自分を見つめる機会を、身近なところで得られるのが、台湾のお寺のよいところだ。

鹿港の街には、他にも多くの「お寺」がある。そのどれもが、冠婚葬祭だけで終わるような日本のお寺とは違う暖かさに満ちている。台湾への旅に、「お寺への参拝」を加えてみたらいかだらうか?特に鹿港のお寺は、どのお寺の歴史も古く、ひなびた街並みの中で、誰でも入って行ける雰囲気だ。荘厳、というのではなく、暖かなにかが来る人を包みこむ。その世界に浸ると、遠い昔に栄えたこの地の街の活気が心のなかによみがえってくるようだ。



鹿港天后宮



「台湾のものづくりの旅」の入り口。小さいながら中は別世界だ。

## 「台湾」をもっと知ろう!(1) ~日本人が台湾への旅行の前に知っておくと良いこと~

◆フロログ  
~台湾からの義援金は180億円!世界一~  
3月11日、日本を襲った東日本大震災。その被災者への義援金を世界で一番多く集め、日本に送ったのが「台湾」だった。日本とは正式な国交が無いにもかかわらず、台湾の人たちは日本が好きだ。それだけではない。台湾の2つの航空会社も「日本は安全」を台湾国内でアピールし「日本向けのツアー半額」などのキャンペーンを行った。さらに、5月には台湾の国会の議長(立法院長)が台湾の国会議員と随員、そして観光客290人を連れて北海道を観光旅行に来た。もちろん「日本は安全」を台湾の人たちにアピールするためだ。

◆日本では「台湾」の報道が少ない  
~日本ではなぜ台湾の知識を得られないか~  
日本は中華民国(台湾)と正式な国交がない。日本の田中角栄政権の時代、日本は大陸中国の「中華人民共和国」と1972年に正式な国交を結んだが、そのさい、それまで国交があった「中華民国(台湾)」と国交を断絶した。しかし、日本と台湾の産業では切っても切り離せないところがどうしてもあるため、日本は台湾とのつながりのため「財団法人・交流協会(外務省の外郭団体)」を作り、台湾とのつながりを

保っている。しかしながら、「中国(大陸)」は、もちろんそれを良いことは思っていない。そこで、台湾の報道はよほど大きなことが無い限り、中国や日本政府に遠慮して、日本のマスコミは報道しないように気をつけているように見えることもある。なお「交流協会」の職員、理事などは外務省から来た方がもちろん多い。日本人のための台湾の知識は、日本で発行している「台湾新聞」や、台湾観光協会東京事務所などでパンフレットやWebページで日本語で手に入る。

◆日本人と台湾人は似ている  
~南方系と大陸系の混血。そして純粋な大陸系も~  
台湾の人口のおよそ8割は、中国大陸から来た人と南方系の海洋民族の混血だ。中華民国の前にあった「清」の時代、台湾海峡は流れが早く海難事故が多かったため、清は台湾の開発に大陸から男子ばかりを送った。そのため、台湾では大陸系の民族(漢民族が多い)と、南方系の民族の混血が進んだ。あとの2割のほとんどは台湾では「外省人」と呼ばれ、1945年の日本敗戦とともに大陸から台湾に移ってきた人たちや、中国の内戦で共産党に敗れ大陸から逃げてきた人たち。こちらほとんどが漢民族だ。最近では世代も進み、台湾

人と外省人が結婚するなどの例も多い。台湾の現地の人のことを台湾では「内省人」という。日本の敗戦で、日本人がいなくなった後を「外省人が埋めた」という意見もある。

◆「台湾」なの?「中国」なの?  
~日本より複雑な「台湾」の歴史~  
台湾はこれまでいろいろな国の支配を受けている。1642年はオランダ、1662年からは鄭成功率いる、当時の大陸を支配した「清」に反対する勢力が統治。1683年、鄭成功が清に敗れ台湾は清の支配下に入った。1896年、日本は日清戦争で勝ち台湾を植民地とし、台湾は日本の支配下になった。その間、中国大陸では1911年に孫文が起した辛亥革命で中華民国が成立。そのときは台湾は日本領だった。さらに、日本が1945年に太平洋戦争で負けて、台湾は中華民国の省の1つとなった。しかし1947年に中国大陸で、共産党と国民党の内戦が始まり、国民党が負けたため、国民党ははじめ多くの中国人が台湾に渡り、そこで中華民国を維持。大陸は中国共産党の支配下で「中華人民共和国」。台湾は国民党の支配下で「中華民国」を名乗った。どちらも縮めれば「中国」であるところがややこしい。実は「清」は漢民族ではなく「満州族(中国大陸の北の民族)」の国家だったことから、漢民族にとって漢民族の国家は長年の夢だった。両方の名についている「中華」とは「真ん中に咲く華」の意味。つまり、漢民族の国家のことを「華」と表現している。

# 日華議員懇談会一行が「八田與一記念公園」 公開記念式典に参加



写真提供：交通部観光局西拉雅國家風景區管理處

元首相、森喜朗氏と日華議員懇談会の幹事長、藤井孝男氏ら一行25名の国会議員と随員10名が、5月7日から8日にかけて台湾を訪問、馬英九總統の主導でできた「八田與一記念公園」の開幕式典に参加した。一行は式典後に馬英九總統と会談し、總統主催の昼食会で昼食をともにした。また、一行は前日の7日晚には

外交部長の楊進添氏主催の晩餐会に招待された。日本側を強く意識した今回の式典は、台湾の政府の存在感と日本との深いつながりを内外にアピールする意味もあり、盛大な式典となった。

元首相の森喜朗氏は自民党所属で当選14回のベテラン。首相以前には、文部大臣、通産大臣、建設大臣など要職を歴任。現在は日華議員懇談会の顧問、日本体育協会会長、日本サッカー協会会長を務める。なお、同氏は民国95年(2006年)11月22日に台湾の政府から「特種大綬景星勳章」を贈られている。

なお、本年の日本の首相経験者の訪台は、前月の海部俊樹氏に続き2度目。昨年首相経験者の訪台は12月3日が最後だった。

# 宗教を超えた・東日本大震災慰霊コンサート

東京の学習院大学で宗派を超えた複数の宗教団体による東日本大震災で被災し亡くなった方々への慰霊コンサートが5月22日、開催された。

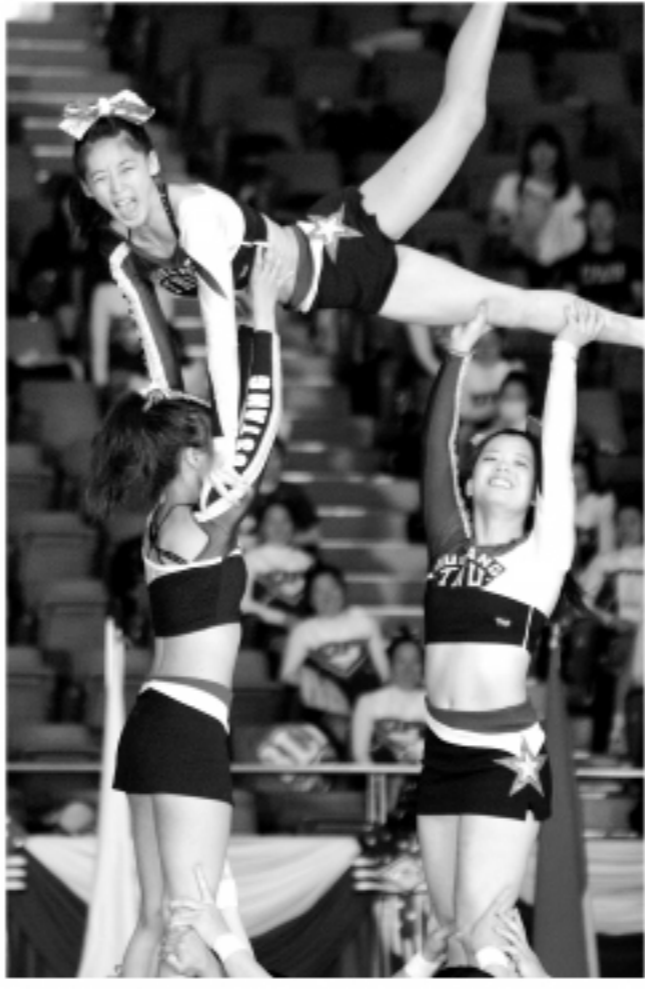
天津出身の二胡の名演奏家、程農化氏がこの音楽祭の発起人。東日本大震災の被災者への支援と犠牲者への鎮魂を込めた、この「聲明と二胡の夕べ-こころのひびき」コンサートには、主催の程農化氏、日本の天台宗、真言宗、日蓮宗そして日本佛光山、揚琴の演奏家、林敏氏、歌手の幽燕さん、東京佛光山寺の合唱団も賛同出演した。ま

た、東京大学の丘山新教授夫妻も応援に駆けつけ、コンサートには100人以上の観客集まった。なお、本コンサートの収入は東日本大震災被災者への義援金として、日本赤十字社に寄付される。

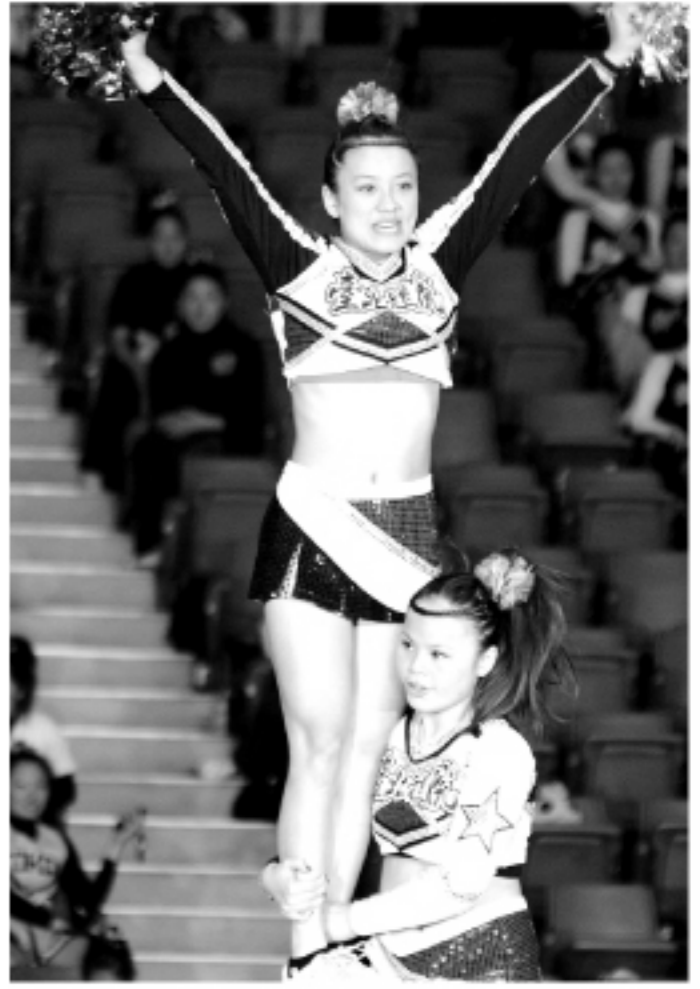
コンサートの後の会議では仏教音楽の宗派を超えた交流が行われたおことが確認された。特に佛光山と日蓮宗のあいだには、これからの交流の機会が生えたとお互いが考えているという。特に台湾から来た佛光山の合唱の声は「ハーモニーが素晴らしい」など、日本人にも好評だったとのこと。



# 第5回チアリーディング アジアインターナショナルオープン・チャンピオンシップ



東南科技大学 (Tungnan University) チームの演技



台北市立体育学院 (Taipei Physical Education College) の演技

# 台湾チームが健闘

5月14、15の2日間、東京・代々木の国立代々木競技場第一体育館で、社団法人日本チアリーディング協会主催の「第5回チアリーディングアジアインターナショナルオープン・チャンピオンシップ」が開催された。この競技会では世界各国から集まった72チームが参加。参加国は日本の他、台湾、インドネシア、韓国、シンガポール、タイなど。台湾 (Chinese Taipei) からは、台北市立体育学院 (Taipei Physical Education College)、東南科技大学 (Tungnan University) の2チームが、優勝を目指した。台湾チームは非常にレベルが高く、当初から優勝候補の1つと言われていたが、総合優勝にはいまひとつ及ばず、「グループスタンツ演技競技・男女混成部門」での第3位となった。



台湾チームの演技は力強く明るい

# 福岡城西ロータリークラブ 台湾の東日本大震災被災者への義援金寄付に感謝の意

「福岡城西ロータリークラブ」は4月19日午後、同会の例会を開催。中里公哉会長が冒頭挨拶の中で、4月10日付の読売新聞に掲載された台北駐日経済文化代表の馮奇台代表の「人飢己飢、人溺己溺(人の苦しみを我が身のことのように)」の記事を紹介し、日本の東日本大震災に対する台湾の110億円(当時)を超える義援金について読み上げた際、会場に100人近くいた会員から感謝の拍手が湧き起こった。中里会長はクラブを代表して台湾の日本に対する心からの友情と声援に謝意を述べた。



「福岡城西ロータリークラブ」中里公哉会長の冒頭挨拶



曾念祖處長の講演

続いて、台北駐日経済文化代表の駐福岡辦事處・曾念祖處長がクラブからの要請により「台湾と日本との関係」について講演。台湾の政治経済における現況と台日友好・交流の様子などのほか、台湾の「東日本大震災」に対する援助状況、日本人の台湾に対する理解と認識の深まりについて詳しく語った。



ロータリークラブの会員は曾念祖處長の話に熱心に聞き入っていた

同氏は講演で、(1) 両国民の相手国に対する友好意識が高まってきたこと、(2) それに伴い、人の行き来も日台で多くなってきたこと、(3) さらに、これからのことも含め経済交流もさらに盛んになりつつあること、(4) 民間での交流のさらなる発展が望まれること、などを語った。また、曾處長は日台双方の「観光」「貿易」「青少年交流」などの各方面にわたる交流、相互の友好関係発展への取組みの強化と相互の協力を行うべき、と語った。

なお「福岡城西ロータリークラブ」と台湾の「員林ロータリークラブ」は1970年に姉妹関係を締結しており、毎年定期的に相互の交流活動を行っている。

# 山形県立庄内農業高等学校へ台湾から義援金

山形県立庄内農業高等学校は、昨年11月に同校の修学旅行として初めて台湾を訪問。

学生たちは李登輝元總統の特別講演会、苗栗県にある國立苗栗高級農工職業学校と交流会などを経験した。その縁で知り合った、苗栗農工の教職員と生徒が、今回の東日本大震災の報道を受け、同校のために募金活動や祈福活動を行い、集まった募金は約7万台湾元とのこと。



苗栗での義援金募集活動



苗栗での義援金募集活動

**100%海洋性コラーゲン 美鱈物語**

特別抽出法利用。天然の魚鱗から抽出されたフィッシュコラーゲン、無汚染で安全。飲むフィッシュコラーゲン、無添加で安心。低分子量、消化吸収しやすい。高品質 45000mg 配合。

詳しくはホームページへ <http://scaletalk.jp> お問い合わせ 03-5812-4868 info@scaletalk.jp 株式会社 興亜 東京都台東区上野 3-21-1 宮本ビル2F

飲むコラーゲン、無添加 低分子量、消化吸収しやすい

★山手線新大久保駅2分 ★総武線大久保駅1分

## 嘉南旅行社

東京都知事登録旅行業第2-4417号(社) 全国旅行業協会正会員

台北 ¥21,000(税別)	北京 ¥23,000(税別)	上海 ¥35,000(税別)
大連 ¥32,000(税別)	韓国 ¥27,000(税別)	越南 ¥32,000(税別)
香港 ¥32,000(税別)	曼谷 ¥32,000(税別)	新加坡 ¥32,000(税別)

●代辦中國・東南亞諸國簽證・臺灣・港・台●日本國內觀光・温泉・滑雪旅行●世界各地便宜機票・酒店及團體旅行●來日團體的接送・送機・導遊●電腦訂位・迅速・確實

精選國、臺、日語服務親切 銀行匯款口座 三菱東京UFJ銀行練馬駅前支店 (普) 3678888 (名義) 嘉南觀光 (株)

營業時間：週一～五 9:30～18:30 週六 9:30～13:00  
TEL: 03-3366-3988 FAX: 03-3366-2989  
地址: 〒169-0073 新宿区百人町2-20-1 第二岡田屋ビル401

# 日本中華聯合總會・劉東光総会長帰国

日本中華聯合總會の劉東光総会長が、ハワイで行われた慶祝建國一百年檀香山聖火首燃大會から帰国。授与された「中華民國100年記念」に、選ばれた世界の華僑に贈られる「聖火」を3月31日、持ち帰った。

劉東光総会長は、同時に孫文先生のハワイでの軌跡を辿り、また英国で孫文先生を助けたカントリー氏のご息子とも面談したとのこと。特にハワイで孫文先生の軌跡を辿るうち、孫文先生が幼少の頃からハワイで暮らし、人のつながりを多く持ち、当時独立した王国であったハワイと米国の争いを目の前で見たことを知る。そのため、「三民主義」につながる確固たる民主主義思想を孫文先生が持つことができたこと、そして、辛亥革命時には西歐社会からの大きな支持を得ることができた

ことなどは、大変に納得の行くことだ、ということを経験した。孫文先生の思想はハワイで固められたことを確信したとのことだ。

東日本大震災については、日本の大震災の知らせからの一連の情報は、在日の山形県、宮城県などの華僑団体から南アフリカにいたときに受け取り、それ以降、毎日日本との連絡を行い、状況把握に務めたとのこと。特に日本で原発事故による放射能汚染が心配されることを聞いたとき、外国にいる自分がなにを在日の華僑みんなにできるかを考え、放射能汚染から身を守ることができるという「ヨード剤」を、9千回ぶん購入し、総会長は自ら



聖火を手にする日本中華聯合總會・劉東光総会長

日本に持ち帰った。

総会長によれば、日本からの旅行者も非常に多かったホノルルの空港も人がまばらで、閑散としていたとのこと。そして、ハワイもまた日本があるために発展を遂げてきたことなどがよくわかる、とのこと。既にハワイの多くの店舗が店じまいをしており、日本の影響の大きさが眼に見えるとのことだ。世界のいろいろな地域で作られている製品に使われている部品のうち、重要な部品はほとんどが日本で作られており、そのため世界各国の製品を作る工

場が操業できないでいることも語り、日本のパワーをあらためて感じたとのこと。

総会長はこの後、神戸や被災地のある茨城などをまわり、聖火のお披露目と、被災地の救援を行う忙しい日程で、日本各地をまわるとのこと。中華民國建国100年という慶事と東日本大震災や原発事故が重なった今年の日本中華聯合總會。その総会長である劉東光氏は、在日華僑同胞への深い愛情があるからこそその重い責任ある立場で、新たな在日華僑の世界を切り開いていくため、奮闘の日々が続く。

## 第34回・東京華僑總會理事幹事会開催

中華民國留日東京華僑總會は銀座にある同会事務所で5月14日、第34回第9次の理事幹事会議を行った。今回の会議には、理事のほか、台北駐日経済文化代表処の華僑部長・趙雲華氏、及び文君秘書もオブザーバーとして出席した。

朱恭亮会長は、会議に先立ち台湾政府への訪台団を東京・大阪の両華僑代表団体で組織し訪台し、5月8日、馬英九總統と会見し、日本に台湾から多大な義援金などが送られた事に対し感謝の意を表したことを報告した。また、總統には馮寄台代表をはじめとする台北駐日経済文化代表処が在日華僑に対しても多くの協力をいただいていることも報告し、感謝の意を表した。また、中華民國建国100年を



理事幹事会には代表処から趙雲華氏も出席した

迎えるにあたり、日本と中華民國(台湾)両国のますますの経済発展と交流を深めていきたい、ということを経理にもお願いしたとのこと。

朱会長の話の後、これまでの東京華僑總會の会計報告とその承認が行われた。また、次回の役員選挙にあたって選考委員のメンバーが決められた。選考委員長には外省華僑の張建國氏が選出された。選挙委員は外省華僑より11名、本省華僑より10名が選出された。

会議の後總會の執行部主催で新宿・龍門館で懇親会が開催され、2年間の理事幹事の労をねぎらった。懇親会には千葉県中華總會の毛利友次会長も訪れ、関東の華僑団体の親睦を深めた会ともなった。



会は厳粛に進んだ

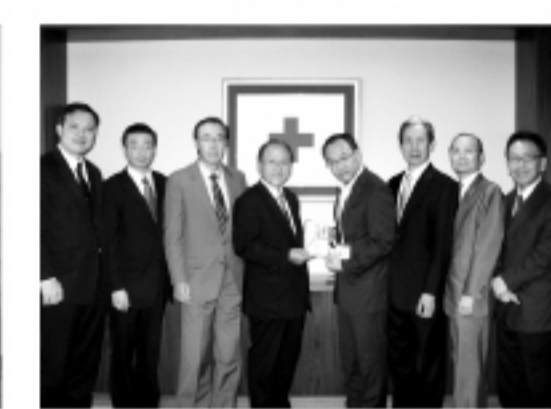
# 大阪中華總會の呼びかけで 東日本大震災への義援金が集まる

東日本大震災の発生以後、大阪でも大震災への在日華僑団体からの援助が行われている。5月19日大阪中華總會の呼びかけで、東日本大震災の被災者への義援金が日本赤十字社大阪府支部に届けられた。この日、集まった金額は1千655万2千円。中華民國留日大阪華僑總會の洪里勝信会長がこの金額を、台北駐日経済文化代表処・駐大阪辦事處へ報告。その後、大阪の日本赤十字社の支社に届けられた。

なお、東日本大震災への義援金は日本赤十字社大阪支部だけで、5月18日現在、35億円近くとなっている。



台北駐日経済文化代表処・大阪府支部の黃諾保副処長(左)に集まった義援金を報告する中華民國留日大阪華僑總會の洪里勝信会長(右)



日本赤十字社大阪支社で義援金を手渡された

## 神戸華僑總會 陸超会長に聞く 「ウォーキングリレー」大会は「新しい世代」への継承の意味をこめて

2011年、中華民國100年のこの年は、日本でも各地で主に台湾系の華僑の団体で多くの記念の催しが行われる。そのなかで、4月2日に神戸華僑總會で開催された「ウォーキングリレー」というイベントがある。このイベントを主催した中華民國留日神戸華僑總會の陸超会長にお話を伺った。

陸会長によれば、このイベントは「中華民國100年」の記念に、なにが本心に「記念」となることはできないか、と考えて行ったものとのこと。「いま、日本だけでなく世界の華僑の社会のまとまりが、かつてほどなくなってきているように思うのです。そこで、昔を知る年齢が上の会員の方々と、いままさに社会で活躍していたり、これから活躍しようとしている世代の会員の方々の交流を図り、若い会員にもこれまでの華僑の歴史をしっかりと認識してもらおう、と思いました」

この「ウォーキングリレー」の主催は神戸華僑總會だが、他にも日本中華聯合總會、大阪華僑總會、今日ト華僑總會、名古屋華僑總會、新広島中華總會の協賛で行われ、関西の華僑団体が一同に集ったイベントとなった。

そこで陸会長ら役員が考えたイベントは「年齢で区切ったウォーキング」だった。幸いなことに神戸という土地は中華民國建国の父、孫文ゆかりの場所や施設がたくさんあるそこを世代ごとに巡る「リレー」を考えた。マラソンでは高齢者がついていけないことも考え「ウォーキング(徒歩)」とした。つまり、世代が変わるごとにバトンを渡しながら目的地を目指すそのさまが、世代間の歴史継承、華僑の心の継承、という象徴的な意味を持つように考えたのだ。「リレー」を世代で区切ってチームとして行い、世代間の継承の意味を込めた。歴史をたどり、世代をたどり、時代をたどり、歩く幾世代も在日の華僑の歴史がそこに込められた。

リレーは最初神戸華僑總會のある場所から、兵庫県庁にまず向かう。この区間は80歳代の会員が担う。距離は1.3km。この兵庫県庁のある場所は、孫文の演説と

して有名な「大アジア主義演説」を行った場所だ。その次は70歳代の会員が後を継ぎ、中華同文学校(孫文の来神記念碑がある)を経て、地下鉄の大倉山公園駅に至る。この公園には孫文の銅像がある。そこからはまた世代が若くなって、60歳代の会員が歩き、地下鉄上沢駅の西口へ。そこからは50歳代が歩く。新長田駅北口に至ると、今度は40歳代の会員がJR須磨駅まで。JR須磨の駅は瀬戸内海の浜辺に直に降りられる珍しい、そして景色の良い駅だ。須磨の駅からは30歳代の会員が塩屋駅まで。そして塩屋駅から20歳代の会員がJR垂水駅まで。最後に10歳代の会員が舞子

ある「孫文記念館」まで至る。

「大会が終わったあと、みな汗を拭いながら、参加者全員が食事をしました。その席でも、若い人たちが昔のこのことを老華僑の方々に聞く、などの場面も数多くありました。在日の華僑の歴史の継承という意味で、大変に意義深いイベントができた、ということを確認しました。このイベントのことを他の地域でも、多くの在日華僑同胞の方々に知ってもらいたい。そして、華僑の歴史の継承と、新たな時代の華僑のこと、そして、我々の団結について、もっと興味を持って欲しい、と思っています。そして、そのためにはこういうやり方もあるのだ、ということを知って、実行していただけたらありがたいです」

大陸、台湾といった地域から世界に飛び出した「華僑」。その歴史は古い、特に清朝の末期あたりから世界に飛び出した華僑は多い。この時期は世界的に交通機関が発達し、人やものの交流が日本を



舞子に消えていく巨大な架け橋は、未知の世界に力強く進む華僑の歴史のようだ

を含めたアジア圏でも、以前にもまして多くなった。この時期、日本に来た華僑も数多い。そして、華僑の先輩たちはここで長い歴史を重ね始めた。その歴史の最初には、外国人であるから、ということで多くの苦勞もしたはずだ。その苦勞、楽しかったことなど、重ねた歴史を次の世代に実際の当事者が継いで行くことは、こ

の100年の中華民國を関わった多くの人たちに、自分のルーツを肌で知る良い機会だったことだろう。

「華僑も、二代、三代、そして今は四代めに時代が移ろうとしています。中華民國100年、といってもその本来の意義が伝わりにくい。時代も違う。今の会員のほとんどは日本に生活基盤を持ち、日本人になりきっていると聞いてもいい。でも、こんな時代だからこそ、自分のルーツを知ることは、自分がどこから来たか、どこに行くのか、ということを知るために、必要なことだと思うのです。このイベントをやって、大変に良かったと思っています」

陸会長はそう言いながら、舞子の孫文記念館の向こうに見える、雨になりそうな瀬戸内海に目をやった。そこには、荒れた海の中に屹立する瀬戸大橋が強くがっしりとしたその姿を横たえていた。その巨大な橋の先は深い霧の向こうに消えて見えなかった。

**中華民國留日東京華僑總會第三十五屆正副會長理事監事選舉公告**

東總發一〇〇(選)〇〇〇一號

本會會長、副會長、理事、監事の任期が近くなり、中華民國一〇〇年五月十四日の本會第三十四屆第九次理事監事聯席會議(以下會議)の議決により、中華民國留日東京華僑總會第三十五屆正副會長理事監事選舉臨時辦法(以下臨時辦法)を制定し、臨時辦法の規定に基づき第三十五屆選舉委員會(以下委員會)を組織し、左記の選舉方法を委員會で制定したので、これを同年五月二十日付で台北駐日經濟文化代表処へ届出たうえ、ここに實施することを公告する。

なお、正副會長、理事、監事の改選は六月一日より六月二十五日までの期間内に實施する。

民國一〇〇年五月十四日の會議で選出された委員は左のとおり：

第三十五屆選舉委員會委員長 張建國 副委員長 羅王明珠

朱恭亮 林三統 馮明輝 魏延年 程金榮 李維祥 張碧華 謝茂根 高博英 韓誠 莊海鏡 詹德萬 黃宗敏 時鎮棟 黃宗民 陳木川 蘇成宗 陳慶順 楊元珍

**理事監事の選舉**

一、各団体が各自に選出する理事監事：

各省同鄉會及び華僑団体は、本年六月十七日(金)までに各々割当された数の理事監事を選出し、その結果を直ちに當会に報告する。

二、選舉委員會で選出する理事監事：

(一) 會員の個人立候補、或は推薦候補に拘わらず六月一日より六月十七日午後五時までに當会に立候補届けを提出しなければならない。但し、臨時辦法第五條(二)による団体推薦立候補の場合には本人の承諾を必要とする。立候補届け用紙は當会にある。立候補に関する詳細は當会事務局に問合せのこと。電話03-3541-7348

(二) 選舉委員會は六月十八日(土)午後三時からこれを審査し、規定された人数を選出する。

(三) 六月二十日(月)當会事務局に於いて理事監事當選者を揭示する。

三、會長、副會長の選舉：

(一) 新任理事、副會長に立候補される者は自己立候補、或は推薦立候補に拘わらず、六月二十三日(木)までに當会事務局午後五時へ立候補届けを提出しなければならない。但し、推薦立候補の場合の推薦者は、新任理事でなければならない。

(二) 新任理事、副會長は六月二十五日(土)第三十五屆第一次理事監事聯席會議に出席し、正副會長を選出する。

四、各団体が各自に選出する理事監事或は會員の個人立候補、推薦候補に拘わらず立候補届けを提出する際、保証金六万円を添えて持参又は振込みにして下さい。当選者は、これを会費に充当する。

中華民國留日東京華僑總會第三十五屆選舉委員會  
選舉委員長 張建國

中華民國一〇〇年五月吉日

台湾で活躍する日本人テレビ司会者-MATSU

～シンプルで地味な吸引力こそ台湾の魅力～

派手さはないが、地味に食べたくなる...それぞれがそういう食べ物を持っているのではない。故郷の味と呼んだり、おふくろの味と言ったり。学生の頃、台中に1ヶ月ほど住んだことがあるが、私にとってのそれは「蘿蔔?(大根モチ)」と「炒A菜」だった。蘿蔔?は初めて台湾に来た時、ざっくりとした食感に軽くびっくりし、虜になった。(軽く、というのがミソ)現在の私はテレビ番組を通じて、台湾の食を紹介しているが、今でも、特に映像にするほどではないが、なんとなく食べたくなるものがある。



紅油抄手はクセになる味だ

まずは「紅油抄手」。日本の中華料理屋で見られることもあるが、台湾の小吃店ではよく見かける。もともとは四川料理由来だが、台湾では辛いものを食べることができない。私が部屋を持つ台北市萬隆の食堂。台湾大学や師範大学から捷運やバスで近く、学生宿舎が多い。食堂内に自家製の紅油(ラー油)が置いてあり、好きな量かけて食べる。もともとは麵の店だが「紅油抄手」は特別な人気で、それだけを注文し食べている客も多い。口に入ると、紅油が香ばしいのなんの。ヨレヨレの皮と小振りだがピッチリ詰まった豚ミンチと、程よく絡む。



台湾のバナナケーキは最高!

以前、四川省成都を撮影旅行した際、麻婆豆腐、回鍋肉、麻辣火鍋など、辛さ一辺倒を食した。味わいを感じる前に舌が麻痺するということが多かったが、台北のこの店の抄手は、軽い辛さの奥にある深い旨味をじっくり堪能できる。そして、萬隆にあるベーカリーのバナナケーキ。蛋?は通常「ケーキ」と訳すが、「パン」と呼ぶ方がイメージに近い。朝食に、と思いきや寄った店で偶然買ったが、フワフワの中に、しっとりとした食感。噛むと、ほんのりとしたバナナの香りが広がる。甘過ぎないのもいい。台湾グルメとまでは呼べないかもしれないが、私はこれまでに少なくとも日本で出会ったことがない「台湾のグルメ」である。

私が台湾に対して感じてきた魅力とは、シンプルで地味な吸引力を有するもの。ただし、映像や写真、文章の世界で、簡素なものも表現するのは難しい作業(だからこそ台湾を紹介するグルメ番組は「うまい!」「たまらんわあ!」「宝石箱や!」と大きなリアクションになり映像的に分かりやすくするのだが)。また、「台湾グルメ」とは括れないものの、「台湾で出会ったうまいもの」の類はいくらもある。グルメ番組のように大袈裟に誇張するわけではないが、個人それぞれにとって、やんわりと忘れ得ぬ味となることが多い。サクサクでジューシーな香煎鶏排(鶏の唐揚げ)も一例、私が気に入っているのは海苔塩(のりしお)がかかったもの。

MATSU プロフィール MATSU(阿松)

台湾で活躍する日本人テレビ司会者。台湾のテレビ局で勤務していた。現在はフリーランスで、台湾のテレビ番組のMCを務める。これまで本島の東西南北 / 金門 / 高雄 / 基隆 / 桃園 / 新竹 / 苗栗 / 彰化 / 南投 / 雲林 / 嘉義 / 屏東 / 澎湖 / 金門 / 馬祖 / 離島 / 小琉球 等を歩き、番組内で「台湾の食の風土」を紹介。月1シリーズはアメリカ、カナダ、中国、日本など世界各地で撮影を行い、その映像を台湾の視聴者に届けている。

『いかにも台湾、やっぱり日本』第6回 「パール・ミルクティー? 抹茶ラテ?」

作家 亜洲奈みづほ

白く濁ったミルクティーの底には、黒々とした柔らかな球体が、むっちり沈められている。そのさまを初めて目にしたさいには「これ...本当に飲むの?」。しかし、こわごわ吸いあげてみると、黒タピオカの、ちゅるんとした口あたりに、「おや!」——それを連続して飲みほし、不思議な物体が喉もとを流れてゆくという感覚は、次第に喜びに、やがては楽しさへと変わっていった。

台湾人はこれを「珍珠奶茶(チェンジューナイチャ)」と呼ぶ。「奶茶」とは、ミルクティーのこと。いっぽう「珍珠」とは、宝石というニュアンスのこめられたタピオカの美称だ。ただしかつて日本でナタデ・ココなどと共に流行した白タピオカでなく、カラメルで色づけされた直径9ミリもある大きな球体である。その誕生は、台中市の喫茶店「春水堂」にて、オーナーが「清涼飲料水に対抗できる中国茶を」とアイスティーに様々な食材を、かけあわせてみた。タロ芋の粉、果物...こうして行き着いたのが黒タピオカ、時は1980年代のことであった。

この逸品、別名が「黒タピオカ・ミルクティー」や「バブル・ティー」、「QQドリンク」などと様々であるのは、世界各地で親しまれているからにほかならない。お隣り

の香港でブームとなり、それが米国などのチャイナタウンに飛び火したのをきっかけに、日本でも受け入れられ、さらに大陸中国・韓国・東南アジア諸国からアフリカに至るまで広まっていったという。台湾の国民的な飲料というばかりでなく、台湾発の世界化グルメとなった。日本にも台湾のファスト・ドリンク店「クイックリー」が上陸、店舗を構えるだけでなく、日本のメーカー自らが本品を製造してコンビニで販売したことがある。さらには中華料理のファミリー・レストラン「バーミヤン」のメニューに、なぜか中華と関係のない「デニース」でまで扱われている——とここまで読まれて、「ああ、あの!」と思いついた。同じミルクティーといえば、日本発のものとしては「抹茶ラテ」が挙げられるだろうか。たとえばオフィスワークに張りつめて、お疲れ気味のOLさんが、ほっとひと息つくために、コーヒチェーン店で注文するなど。抹茶そのものに、精神を落ち着ける作用がある点がポイントだ。いっぽうのパール・ミルクティーは、喫茶店で飲まれるよりも、屋台やファスト・ドリンク店からのテイクアウトのほうが、比率としては多いだろう。夜中でぶらりと歩き飲み、友達とわいわい、そぞろ歩きしながら楽しむ、そんな感覚だ。鎮静作用のある抹茶ラテと、飲んで楽しいパール・ミルクティー。同じミルク入りでも、全く対照的である。

話は変わるが、日本ではようやく国民の幸福度指数の本格的な調査が始まった。ところが、さかのぼること5年も前に、台湾では既に同様の試みがおこなわれており、調査項目には、次のようなものが含まれていた。「台湾人の、楽しさ指数」——行政院経済建設委員会の調査結果によれば、台湾人の楽しさ指数は、100点を満点とすれば62.68点であったという。わざわざ「楽しさ」が基準の指標となるあたり、それが台湾人の価値観として重要であることがうかがわれる。たしかに台湾映画を観れば、2009年の台湾最高峰映画「海角七号」には、バンド結成をめぐるドタバタ喜劇が登場しており、翌2010年の最高興行成績映画「モンガに散る」でも、青年ヤクザの乱痴気騒ぎの格闘稽古シーンが鮮やかに描かれていた。ハリウッド映画や香港映画にありがちな、誰かをめつたうちにして傍がそれを笑い飛ばすというパターンでなく、わいわい・がやがや、賑やかな楽しさというもの。それを呑気にとらえるのではなく、筆者には台湾人の魅力として感じられてならない。

余談だが、素朴な疑問が残されていた。前述の黒タピオカ、はたしてストローに詰まらないのか? 心配は御無用、これだけパール・ミルクティーが一般化した台湾では、極太ストローが各店に完備されているのであった。その太さは通常の3倍に至るだろう



リミックス上手な台湾人は、紅茶や烏龍茶に、なぜか黒タピオカを、かけあわせてしまう。

台湾を憶う日本人(13)

世界を旅して台湾への思いをかたる 會田貴代さん

林雅行(映画監督)

アメリカ、メキシコ、カナダ、オーストラリア、サイパン、イギリス、フランス、ドイツ、スイス、オランダ、ベルギー、ギリシャ、イタリア、スペイン、中国、韓国、タイ、シンガポール、マレーシア、フィリピン、インドネシア、そして台湾—會田貴代さんの渡航歴である。

鹿児島県鹿屋市で生まれた會田さんは、東京外国語大学スペイン語学科を卒業して全日空に入社、国際線客室乗務員として勤務した。その時、世界各地に足を運んだのである。台湾には2回行ったという會田さんは、いろんな国を廻らうと台湾の印象をたずねると、「新しいものと古いものが共存している。遺産としてでなく伝統が息づいている」という。「年長者をいたわってくれる」とも。

大学生の時、アメリカのコロムビア大学アメリカ語学研修に行った。台湾からの女性が出て「バブルで積極的。何でも知たがる女性」に、はじめて台湾を意識したという。

私は、21年前に會田さんを知っている。NHKの衛星放送センターでディレクターとして仕事をしていて、大学生の會田さんがバイトをしていた。その頃、私は、広島出身の漫画家中沢啓治さん(「はだしのゲン」作者)と懇意にしていた。中沢さんは小学生の時に原爆を受けた。會田さんの母が中沢さんと同じ小学校(神崎小学校)だったが、戦争が激しくなり、鹿児島に引越していて難をのがれた。しかし被爆し



右が會田さん

た同級生もいて小学時代の同窓会にひとしお思い入れがある...何かをきっかけにそんな話を會田さんとした私は記憶している。その頃は、湾岸戦争が起こり、ソ連が崩壊し、私はアジアには目がいかなかった。その後、TV番組制作会社を経て1995年に独立した。會田さんは、全日空に入社、1995年、退職。3年後結婚した。高校時代から、油絵を始め、画家としても活躍し、数々の賞に輝き個展も開いている。鹿児島に住む母も日本画家である。

九份には、父母と姉と夫、長男で2009年に家族で行った。父母の喜寿のお祝いをおこなった台湾旅行だった。私は九份の街に生きる人々(2007年)をドキュメンタリー映画「風を聴く」で作品にしたが、九份の画家が、「昔は淡水を書かないと画家として一人前じゃないといわれたが今は九?を描かないとそういわれる」と話していた。會田さんも、「九份を描いてみたい」というから楽しみだ。

また、會田さんの母方(馬場家)は、台湾が日本統治下になった時の初代総督の横山資紀の遠縁にあたるという。母方の母は、大正時代から昭和の始めまで台湾の駅の売店に勤めていた。また親戚には駅長だった人もいて、馬場家は台湾の鉄道一家だったらしい。

「台湾での馬場家の生活ぶり、鉄道とのかかわりについても調べてみたい」と會田さん。好奇心旺盛!

台湾の鉄道は、日本時代に整備され、駅舎などいまでも名残を随所に留めている。基隆と高雄を結ぶ縦貫線、枋寮まで走っていた潮州線、花蓮港と台東を結んだ台東線、平溪線や集集線、阿里山鉄道も日本時代である。中南部のサトウキビ列車も。台湾の鉄道ファンは日本にも多い。會田さんにとって自らの先祖をたずねる新しい旅が始まる? 線路は続くよ、どこまでも。

台北駐日経済文化代表処で「孫文と日本の友人たち」開催

2011年6月17日から、東京・港区白金台にある台北駐日経済文化代表処(台湾の政府の大使館にあたる)で、「中華民國(台湾)建国100周年記念特別展「孫文と日本の友人たち」が開催される。何度かの革命失敗の後、1911年に辛亥革命で「中華民國」を成立させてから今年で100年。その革命の中心となった孫文は、世界に名前を知られた革命家として、今も台湾では「国父」と呼ばれている。中華民國成立後もなくして孫文は亡くなったが、その

精神は台湾の多くのの人たちの胸に今も語り継がれている。また、生前の孫文はその革命成就までに梅屋庄吉や宮崎滔天など有名無名の多くの日本人と交わり、日本にも何度も滞在し、中国革命の中核となった「中国同盟会」も東京で結成された。また、中国革命にはおおよそ1千人近い日本人も戦闘に参加したと言われている。日本人と孫文、そして中国革命とのかかわりを知る今回の貴重な展示は、日本の先人たちの偉業と心を辿る展示でもある。

Advertisement for the exhibition 'Sun Yat-sen and Japanese Friends'. It features a large black and white photograph of Sun Yat-sen and several Japanese friends. Text includes the exhibition title, dates (June 17 to July 14, 2011), location (Taipei Economic and Cultural Office in Japan), and contact information. A vertical banner on the right reads '孫文と日本の友人たち' and '革命を支援した梅屋庄吉たち'.

留學生 林曉晶さん(25)

林曉晶さんは東北大学国際文化研究科二年の研究生。ロングヘアで無垢な笑顔が印象的な女性だ。

2009年の春に東北大学に留学、現在は修士2年の学生。言語の勉強が好きで彼女は、台湾で大学に進学する際、英語学科を希望したが、地元の台北を離れたくない、と思い東呉大学の日本語学科を選択した。それがきっかけで、日本との縁が始まった。後に、台湾の日台交流協会の奨学金を申請し合格。来日となった。卒業して台湾に戻ってからも台北で就職したいとのこと。

物静かな彼女は映画とジョギングが趣味。映画はアットホームな映画が好き。週3、4回は家の近くの堤防でジョギングしているという。自分のことを淡々と語る彼女の性格は



林曉晶さん

温厚なものでも人懐こい。しかし、目標をやり遂げる意思は強い。人前に入るなどの派手さより、静かに胸に情熱を刻み、夢を実現していく人に見える。まだ若い彼女がその殻を破って新しい世界に出たとき、更なる成長が期待できるだろう。

# あなたの **笑顔** を見たい



## Taiwan

THE HEART OF ASIA

### 2011ウェルカムプレゼントキャンペーン実施中!

台湾観光局では食べて、見て、感じて、触れて、訪れるたび新たな感動と出会う台湾の旅を訪れる皆様楽しんでいただこうと、季節ごとに異なるお得で楽しい“ウェルカムプレゼント”を皆様に向けて2011年も新たにご用意しました。記念すべき100年を迎えて祝賀ムードに包まれている台湾で、五感をふるわせる至上の旅をぜひご体感ください。

#### 〈プレゼント情報〉

- 春・夏 台北MRT悠遊カード
  - 夏 台湾アミューズメントパーク入場無料チケット
  - 秋・冬 台湾特産品引換券
  - 冬 台湾夜市特選グルメ消費券
  - 通年 故宮博物院無料参観券
- 入手ご希望の方は事務所までお問い合わせを!

### 台湾歳時記

#### ●端午節

日程:2011年6月6日 (旧暦5月5日) ※祝日  
ドラゴンボートレース会場:  
新店碧潭、基隆河、宜蘭県冬山河、二龍村、  
彰化県鹿港鎮、高雄市愛河ほか各地で開催

#### ●台北霞海城隍誕生祭

日程:6月14日 (旧暦5月13日)、  
100年台北霞海城隍文化シーズン(6月2日~20日)  
場所:台北市大同区霞海城隍廟、同廟傍 大同区永楽広場

#### ●澎湖 花火フェスティバル

日程:2011年6月30日迄の毎週月曜日と木曜日の夜  
場所:澎湖 虹橋(観音亭レジャー区)

#### ●福隆海岸 100年サンドアートフェスティバル

日程:2011年6月30日迄  
場所:新北市

**台湾観光局**

<http://jp.taiwan.net.tw/>

**台湾観光協会**

●東京事務所 〒105-0003 東京都港区西新橋 1-5-8 川手ビル 3階 TEL(03)3501-3591 FAX(03)3501-3586  
●大阪事務所 〒530-0047 大阪市北区西天満 4-14-3 住友生命御堂筋ビル 6階 TEL(06)6316-7491 FAX(06)6316-7398